

# 品川区立第二延山小学校

## 小中連携による学力向上に向けた取り組み

### 連携校 荏原第六中学校 小山小学校

平成21年8月

第二延山小学校では連携校である荏原第六中学校、小山小学校とともに小中一貫教育の推進、児童・生徒の学力向上等について検討、実践を重ねてきました。

今回、平成20年度学力定着度調査（荏原六中現8年生）の結果等をもとにした、小中連携による学力向上についての検討を行ないました。

本校では現6年生の平成20年度都学力調査の結果等も合わせて、児童・生徒の基礎・基本に関わる学力の定着状況から5～7年生における課題を明確にし、荏原六中・第二延山小・小山小の連携三校における学力向上に向けた課題解決のための方策を検討し実施していきます。

平成20年度学力定着度調査（荏原第六中学校現8年生）の結果等については、荏原第六中学校のホームページに掲載されています。

7年生の調査結果等から見られる5～7年生における課題  
（荏原六中の分析および二延小での分析結果とあわせての考察）

#### 【国語】

漢字の書き取りの定着率が低いという現状は中学校と共通である。教科書の新出漢字と合わせると相当数の字数を一時期に学習することになる。その際、意味がわからないまま漢字を練習している児童がいる。そのため、漢字を覚えても使うことができない。漢字の定着率を上げるためには、漢字の意味理解が例文や意味も併せて覚えさせるような指導の工夫が求められている。

中学校では文法事項に関する問題で、修飾語・被修飾語の関係を問う問題や、主語の見分け、敬語についての基本的な問題につまずく生徒が多く見られた。小学校でも、主語・述語、修飾語・被修飾語、敬語等の言語事項については定着度が低いという現状がある。文法事項を取り扱う単元が少ないことと、学習後に集中的かつ継続的に文法事項を扱う授業時間を確保しきれないことが影響していると思われる。このことは、中学校と一致しているので、文法事項を扱う時間の設定が必要となる。

読解に関して、文学的文章より説明的文章を苦手とする課題も中学校と共通している。品川区学力定着度調査（現5年生）では、特に内容を大きくまとめながら文章を読む問題と、段落相互の関係を考えながら文章構成を考える問題でのつまずきが見られる。説明的文章を取り上げた単元での指導の工夫が求められる。

品川区学力定着度調査（現5年生）では、作文に関する問題は全て、区の習熟基準より高い正答率となっている。しかし、児童の実態を見ると、中学校での課題が本校でもそのままあてはまると言える。特に、正しい原稿用紙の使い方については、6年生でも身に付いていない児童がいる。また、文法の誤りは、主語・述語の関係が分かっていないために、誤った文になってしまう例が少なくない。作文を扱った単元で、繰

り返し指導をする必要がある。

- ・漢字の書き取りの定着率が低いという結果をふまえ、本校でも『漢字ステージ』を用いた学習をステップアップ学習を中心に積極的に行っている。漢字の書き取りを繰り返し練習するだけでなく、熟語の意味理解や文中での使い方も合わせて学ばせるような指導が必要である。
- ・漢字の学習と同時に、国語辞典、漢和辞典の使い方にも慣れさせておく。特に国語辞典を使用した辞書引き学習を全学年で実施している。(1年生は、2学期から)また、授業時間では多くの時間が取れないため、ステップアップ学習での習熟度別学習などを通して繰り返し練習させる手立てを工夫する。教科書の各単元の新出漢字と並行して学習するが、漢字ステージでの学習を系統的に行うことを優先させる。
- ・主語・述語や修飾・被修飾などの基礎的な文法用語は、2・3年生で学習した後に、中・高学年で言語事項を学習する際に扱うようにすることも必要である。
- ・敬語を扱う単元は、5年生での1単元のみである。文法事項同様、授業や日常の中で繰り返し、指導していくことが必要である。
- ・読解力を身に付けさせるために、説明的文章を扱う単元で、段落分けの方法や、事実と意見とを関連づけて読み解く指導を行う必要がある。
- ・文章力を育てるために、作文を扱う単元では、原稿用紙の使い方を繰り返し指導するとともに、推敲を通して主語と述語が正しく使えるよう、個別指導していくようにする。

## 【算数】

中学の現状としては、計算の速さと正確さは、全体的に向上しているとのことである。これは、小中連携の中で、計算力を向上させる取り組みをしてきた成果といえる。ただ、現7年生に関しては、日頃の授業や定期考査の様子を見ると、習熟度が若干低いようである。そのため、今後も計算力向上ための工夫を続けていくことが必要である。二延小では、計算問題は全て区の習熟基準を超えているが、四則混合の計算の正答率がやや低めである。これは、中学校でも同様の傾向があるので、個人差に合わせた指導の工夫が求められる。

単位量あたりの学習では、速さを求める公式を丸暗記しているだけで、それを活用できない傾向が見られる。また、平面図形・立体図形ともに、基本的な見方、図形の特徴や計量の方法については、理解できているものの、思考力を要する問題が苦手であるという傾向がある。図形の単元が苦手であるというのは、二延小でも共通である。数量の感覚がなく、自分の出した答えの吟味ができなかつたり、公式の丸暗記はできるが、文章題等で使いこなすことができなかつたりする。そこで指導方法の改善、工夫が求められる。

- ・速さを求める公式の理解と活用については、習熟度別学習やステップアップ学習を通して、個々の児童に合わせた学習方法を工夫し、確実に基礎・基本の定着を図る必要がある。
- ・5、6年共通の課題として計算があげられているが、整数・小数・分数の四則計算については、継続的に繰り返し復習する必要がある。

- ・数量感覚の欠如、応用問題への対応については、生活と関連付けたり、問題の意味の理解を徹底させたりすることへの工夫が必要となる。
- ・得点率の低い生徒は、途中式を書かない傾向があり、そのためにケアレスミスをしてしまうことが多い。日頃の算数の授業やステップアップ学習の時間に、途中式をきちんと書くよう指導を徹底していく。
- ・小学校、中学校で共通している課題については、小中連携授業で取り上げて指導の方法を探っていく。21年度は、図形の単元を取り上げ、小中連携授業を実施する予定である。

### 課題に基づいた5・6年生の目標

#### 【国語】

6年生終了時まで、小中一貫教育要領で示されている1016字を確実に覚える。また、意味も理解し、正しく漢字を書いたり、使ったりすることができる。

主述関係、修飾・被修飾の関係と、敬語の使い方を正しく理解し、文中の接続語や指示語のはたらきがわかるようにする。(教科担任による指導)

ことわざや四字熟語にも関心を持ち、積極的に意味を調べ、活用できるようにする。

(教科担任による指導)

漢検など目標をもって漢字学習に取り組む。(小中連携：夏休み・10月土曜日に漢検を実施)

#### 【算数】

四則計算について、速く正確に計算する力を身につける。また、計算のきまりを理解して、活用できるようにする。

数量感覚を身につけ、自分の答えを吟味することができる。

文章問題を読んで立式ができる。(公式の活用)

基本的な平面図形や立体図形について、性質などを理解し、面積・体積を求めることができる。公式を理解し、活用できるようにする。

小数の位取りの理解を徹底させるとともに、除法の計算が速く正確にできるようにする。(特に5年生では重点的に)

### 課題解決のための方策

#### 【国語】

- ・ステップアップ国語の時間を、習熟度別にする。 1 [ ]
- ・ステップアップ国語の時間と辞書引き学習をリンクさせ、熟語の意味理解も深める。 [ ]

- ・国語の時間（週 1）を、文法（主語と述語、修飾語と被修飾語、指示語、敬語）と作文の指導に当てる。担任、または教科担任による指導とする。（ 5 年生）〔 〕
- ・国語の時間（月 2）を、文法の知識を生かした作文力向上の指導時間とする。5 年次のつまずきのデータを 収集、検証し指導に生かす。（ 6 年生）〔 〕
- ・指示語・接続語については、説明的文章の授業などを通して徹底できる指導計画を立てる。〔 〕
- ・個に応じて放課後に「個別学習の時間（補習）」を設定する。（週 1 ～ 2 回）〔 〕
- ・ 2 1 , 2 2 , 2 3 年度、校内研究で国語科の研究を進めていく。〔 〕

#### （ 1 習熟度別学習クラス分けのタイプ）

- ・例文作りまで全てに力を入れるクラス
- ・熟語や例文の書き取りを中心にするクラス
- ・漢字の使い方や形など気をつけるポイントを聞いてから、漢字の書き取り練習をするクラス
- ・一文字ずつ説明を聞きながら練習するクラス

#### 【小・中連携校での取り組み】

- ・習熟の不十分な指導事項を取り上げ、小中連携授業を実施する。3 校の担当者を中心に、単元の研究を深めていく。2 1 年度は、文法事項（主語・述語）を取り上げる。〔 〕
- ・連携校独自の文法事項の系統表を作成する。各学年で確実に身に付けることを明確にする。〔 〕

#### 【算数】

- ・算数習熟度別担当教員と担任とで指導に当たり、単元を通しての習熟度別学習、少人数学習を行うことによって、児童の実態に合わせたきめの細かい指導をしていく。〔 〕
- ・ステップアップ算数は 1 学期に引き続き習熟度別クラス（ 5 ～ 6 クラス）で、前学年までの既習事項および該当学年の学習事項の復習をする。〔 〕
- ・毎回のステップアップ算数の始めに、計算を中心とした 5 分程度の計算プリントに取り組む。（ 6 年生）〔 〕
- ・ステップアップ算数の発展クラスでは、数学的思考力を育てることを意識した指導内容にする。〔 〕
- ・一斉指導の時間には、互いに教え合ったり発表を見合ったりする場を設け、算数に対する意欲や関心を高めていく。〔 〕
- ・個に応じて放課後に「個別学習の時間（補習）」を設定する。（週 1 ～ 2 回）〔 〕

#### 【小・中連携校での取り組み】

- ・プラス の各単元の指導内容、学年のつながりや定着度についての情報交換の場を持つ（ 5 ・ 6 年 + 7 年で）。今年度は図形単元で小中連携授業を実施する。3 校の担当者と 6 年生担任で、単元の研究を深めていく。〔 〕